



診療科紹介【整形外科】

変形性関節症に対する当院での取り組み

整形外科医長 岩名 大樹

中高年になって関節に痛みが出現する病気に変形性関節症というものがあります。関節の軟骨がすり減り、関節炎や変形を生じて痛みなどが起こる病気で、関節であればどこにでも起こる可能性はありますが、一般的には膝での症状でお困りの患者様が多いようです。

関節は軟骨同士が接触している部分を関節包という袋が覆い、その中に関節液と言われるネバネバの液体が入っていてスムーズに動くのですが、軟骨がすり減り炎症が強くなるとその関節液が多くなり、いわゆる「膝に水が溜まる」という状態になります。

■ 変形性膝関節症に対する治療

初めのうちは立ち上がり時や階段が辛いといった症状で整骨院での理学療法に通われておられることが多いようですが、膝に水が溜まると整形外科にお越しになります。当院では立った状態でのレントゲンや歩き方から足底板という装具を処方したり、ヒアルロン酸の関節内注射を行ったりしていますが、今までに同様の治療をされているのに良くならない方には、手術をお勧めすることもあります。



■ 手術の種類

ある程度までの軟骨のすり減りだけであれば高位脛骨骨切り術といって脛の骨を矯正してO脚を直し、軟骨が過剰に削れていくのを予防する手術をします。もう少し軟骨のすり減りがある場合にはたとえば内側のみを人工関節に置き換える手術（単顆型人工関節置換術）をお勧めします。さらに軟骨が削れ、靭帯も悪くなっている場合には内側も外側も人工関節に置き換える手術（人工膝関節全置換術）が必要になります。

■ 人工膝関節全置換術

当院では膝の曲がりが良い人工関節を使用しており、元々の膝の曲がりが良い方の場合には130度の膝の曲がりを目指しています。また非常に削れにくいポリエチレンの部品を関節軟骨の代わりとして使用することで、手術の後に特に運動制限をしなくても人工関節を入れ替えることなく一生使用していけると考えております。



■ 手術後の痛みとリハビリテーション

従来の麻酔に加えて神経ブロックという麻酔を追加することで、手術中の痛みはもちろん手術後の痛みも以前に比べると格段に少なくなっています。またこのために手術後のリハビリテーションも進みやすく、ほとんどの方が手術後1週間の時点で膝の曲がり110度、杖で歩行できる程度には回復しています。だいたい1か月程度経つと杖を持たずに歩くことや階段を上手に昇り降りできるようになり退院されます。

■ 当院での新しい取り組みについて

近年では日常生活同様に手術に対してもコンピューター技術を応用することが一般的になりつつあります。当院では膝の手術の計画に対してCT画像を用いた「3次元術前計画システム」を導入しました。これにより患者様ごとの膝の形状や変形にあった術前計画を行うことが可能となります。そして手術中にはこの計画にのっとり迅速にしかも正確な手術が行えるため、手術時間の短縮と出血量の減少、膝の曲がり良く、人工関節の長持ちの点でもさらに有利となります。



当院では2年前より股関節の人工関節置換手術にナビゲーションシステムを導入し従来よりも正確で安全な手術が可能となっていますが、今期から上記のように人工膝関節置換術にも最先端のコンピューター技術を取り入れた手術が可能となり、今後はよりいっそう患者様一人一人に適した診療や手術が可能となります。股関節や膝関節の痛みのために日常生活でお困りの際は是非ご相談ください。

～ 医 師 の



遠藤 和喜雄 副院長（外科）

港区の皆様、初めまして。4月1日に船員保険病院外科の責任者として着任しました遠藤和喜雄（えんど う わきお）と申します。出身は大阪市内（阿倍野）ですが、神戸や北摂の病院に長く勤務しておりました。この3月までは北摂の公的病院に12年間勤務し、長く地域と関わりを持って外科診療を行ってきました。専門は主に肝臓・胆のう・膵臓の外科治療および腹腔鏡手術です。最近では、単孔式手術（お腹の傷が1ヶ所）に興味を持ち、胆のう摘出では7割以上を単孔式で行っていました。前の病院では当初、外科のスタッフが少なかったため腹部の良性・悪性疾患、一般外科的疾患（兎径ヘルニア、痔核など）、救急疾患など様々な疾患を扱ってきました。船員保険病院も外科のスタッフが限られていますので、専門に限定する事無く、必要とされている疾患には積極的に取り組んでいくつもりです。また、急を要する疾患にも出来るだけ対応できる体制を構築していきたいと考えています。

私は外科診療を行って行く際に重要なのは以下の3点であると考えています。1つ目はなるべく低侵襲な方法で行う事。近年、悪性疾患を含めて多くの外科的疾患で腹腔鏡手術が行われるようになってきました。この手術方法の一番の利点は体にかかる負担が少ないという事です。対象になる臓器は胆のう、胃、大腸、脾臓などです。当院でもなるべく腹腔鏡を使用した手術を行っていきたいと思います。2つ目はなるべく標準的な方法で行う事。最近では多くの疾患で診療ガイドラインが作成されており、悪性疾患の場合は進行度によって手術方法も大体決まっています。また、抗がん剤の治療でも標準的な治療法が決まっています。手術も抗がん剤治療もガイドラインに沿った標準的な治療を心がけます。ただ、患者様の状態、状況によって個別の治療を行う事が必要となる事もあり、個々に対応していきます。3つ目は、これが一番重要なのですが、チーム医療つまり医師だけではなく看護師、薬剤師、技師などの専門職、事務職が力を合わせて医療を行う事です。外科手術の場合、とすれば手術の出来映えだけで結果が決まるように思われがちですが、多くの職種が関わる事で安全性が高まり、さらに術後の経過が良くなります。今日の外科手術はクリニカルパス、栄養管理、感染管理など無しでは成り立たなくなってきました。また、癌の場合には抗がん剤治療を使用する事もあり、薬剤師、看護師との密な連携が安全に治療を行うためには必須です。さらに、進行して治療法が少なくなってきた時のことを考えると早期からの緩和ケアチームの介入も重要です。当院でも治療を進めていく上で必要な医療チームをさらに充実させていきたいと思っています。

以上の事を中心として、地域の皆様が安心して来ていただける、信頼出来る外科を目指して行きますので宜しくお願いいたします。

ご 紹 介 ～



加藤 弘康 内科部長（内科）

はじめまして。

本年4月より当院に赴任いたしました、内科（循環器）の加藤弘康です。前任は堺市にある大阪労災病院で、循環器内科副部長として心臓や下肢など末梢血管を風船やステントで広げるカテーテルインターベンション治療を中心に診療を行ってまいりました。大阪労災病院は循環器内科医だけで18名を擁する病院で、2011年に大阪で桜橋渡辺病院に次いで多くのカテーテル治療を行った実績がありますが、このた

び若手の精鋭である岡本直高先生とともに当院にやってきました。

・ 当院の印象。

海遊館が近くにあり海の好きな私にはうれしい立地です。船員さんはじめ外国の患者さんがたくさん来られるのにも驚きました。スタッフは、看護師さん・薬剤師さん・生理検査や放射線科の技師さん・臨床工学士その他の方々も非常に協力的でやる気もあり、大変恵まれた環境だと感じています。その中であって当院の特記すべき特徴としては、心エコーのレベルが非常に高いところにあると思います。週1回の心エコーカンファでの別府院長のコメントはさすがで、目から鱗が落ちる思いをすでに何度もしております。また、院長の指導が行き届いており、技師さんたちも高度な技術を持っておられます。同じく心エコーのレベルが高いとされている大阪労災病院を凌駕し、おそらく全国でも有数の施設と言えるのではないのでしょうか。

カテーテル治療に関しては、今までも循環器系を専門とする常勤医として山元先生、國重先生が担当されていましたが、非常に難易度の高い治療もこなされており、技術的にはとても高度です。いかんせんマンパワー不足で今までは心筋梗塞などの循環器救急等では十分な対応ができない場合もあったと思いますが、今後は今まで以上の対応が可能になると思います。すでに院内の態勢づくりづくりをはじめていますが、先述の通り、スタッフのみなさんの協力的な姿勢をありがたく感じています。

・ 今後力を入れていきたいこと。

循環器救急対応を充実させていくほかには、特に下肢などの末梢血管のカテーテル治療に力を入れていきたいと思っています。歩くと足が痛くなる場合、しかもそれが少し休むことによって改善する場合には、足の血管が動脈硬化で狭くなっていることが疑われます。整形外科で調べてもらっても異常がないと言われたけれど、やっぱり痛いなあ・・・などという場合には、血管の異常の可能性があります。また、足の傷が治りにくい場合なども血流不足が原因の場合があります。手足の血圧を同時に測るだけの簡単なABIという検査で異常の有無がわかりますので、気軽に受診してください。

・ 蛇足ですが、私個人について。

趣味は旅行です。暇を見つけては家族（妻と娘がおります）で海や温泉などを巡っています。また、最近はあまりできていませんが、水泳やテニス・スキーなど体を動かしたり、自転車でツーリングしたりするのも大好きです。



医師の ご紹介

- ① 専門分野 ② 趣味 ③ 一言



中野 博史 部長 (外科)

- ① 消化器外科
肝胆膵外科
- ② ドライブ、ゴルフ
- ③ 平成25年4月から大阪船員保険病院外科に参りました中野博史です。昭和60年大阪大学医学部卒業で、大阪府立成人病センター、東大阪市立総合病院、市立貝塚病院と勤務してきました。当院の外科を、アクティブでハイクオリティーな外科にしていきたいと思っています。何卒よろしくお願ひします。



安永 豊 部長 (泌尿器科)

- ① 泌尿器科学
- ② 特になし
- ③ 3月までは国立病院機構大阪医療センターに勤務していましたが、4月

1日付けで当院泌尿器科を担当することになりました。腎臓移植は終了いたしますが、腫瘍をはじめ泌尿器科一般治療について充実を図っていきたく思います。どうぞよろしくお願ひいたします。



岡本 直高 医員 (内科)

- ① 循環器内科
- ② フットサル、サッカー
- ③ 3月まで大阪労災病院に勤務していました。

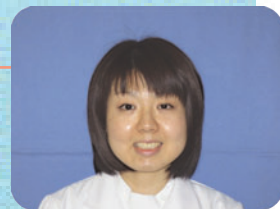
4月より加藤部長とともに赴任してきました。循環器を始め、内科、病院のために少しでも役に立てればと思っております。多々、至らないところがあるかと思ひますが、何卒宜しくお願ひ申し上げます。



城 尚志 医員 (内科)

- ① 消化器内科
- ② 読書
- ③ 平成25年4月1日付けで大阪厚生年金病院より赴任して

参りました。内科一般に対し、御迷惑をおかけするかもしれませんが、今後も精進を重ね、消化器内科の活性化にも努めさせて頂きたいと考えております。患者さんに思いやりのある医療を実践できるよう、頑張りますので、今後とも宜しく御願ひ申し上げます。



綿島 史子 医員 (内科)

- ① 腎臓
- ② 読書、音楽をきくこと
歩くこと
- ③ 大阪医療センター総合診療科から4月より赴任して参りました。患者様に寄り添った医療を目指し、越智先生、伊藤先生、作道先生の御指導のもと精進していく所存です。まだまだ未熟者の私ですが、よろしくお願ひします。



谷 哲郎 医員 (整形外科)

- ① 整形外科
- ② 野球、楽器演奏
- ③ この4月から船員保険病院に赴任しました。

大阪厚生年金病院から参りました。まだシステムに慣れておらず、ご迷惑をおかけすることがあるかもしれませんが、早く慣れて明るく元気に頑張りたいと思ひます。よろしく願ひします。



須磨 敬司 医員 (形成外科)

- ① 形成外科
- ② バスケット、ゴルフ(初心者です)。バスケットは学生時代に部活として、ゴルフは研修医2年目から始めました。機会があればお誘ひください。
- ③ 今年度から大阪大学形成外科学医局に入局し、4月より船員保険病院形成外科に勤務することになりました。出身大学は兵庫医科大学です、初期研修は大阪大学・東大阪市立総合病院にて行いました。形成外科医として初めて勤めますのでご迷惑をおかけすることもあると思ひますが、頑張りたいと思ひますのでよろしくお願ひします。



栗山 真梨子 医員 (形成外科)

- ① 形成外科
- ② Cafeめぐり、読書
- ③ 形成外科医としては2年目、

卒後4年目の栗山真梨子と申します。この4月からこちらに異動になり、まだまだ何もわかっていない状況ですが、一生懸命頑張ろうと思ひます。困っている時は色々とお聞きすると思ひます。どうぞよろしくお願ひ致します。

発行

大阪船員保険病院／地域医療連絡室

〒552-0021 大阪市港区築港1-8-30

TEL 06-6572-5721(代表) FAX 06-6572-6713

http://www.sempos.or.jp/ohsaka/renkei/renkei_tayori.html

